

海岸地域の無脊椎動物類

カテゴリ変更及び理由【海岸地域の無脊椎動物類】

和名	旧和名	宮城県RL 2021	宮城県RDB 2016	変更	カテゴリ変更の主な理由
イボキサゴ		CR+EN	VU	変更	震災後は数カ所で少数が時折みられるだけであり、絶滅寸前であるため。
フトヘナタリ		CR+EN	VU	変更	震災で激減した後、現在では限られた場所に極めて少数が生息するのみであり、絶滅寸前であるため。
カワアイ		CR+EN	VU	変更	宮城県では数カ所においてのみ震災後も確認できているが、生息地は極めて少なく、限定的であるため。
クビキレガイモドキ		CR+EN	VU	変更	震災後に確認できたのは2カ所のみであったが、近年は生息情報がない。生息地が限られる上、生息数も少なく、減少傾向が著しいため。
クレハガイ		—	VU	削除	震災前の生息記録が少数あるものの、震災後は確認されていないことから、以前の記録は偶産種と考えられる。宮城県は生息域外とみなされるため。
アカニシ		DD	VU	変更	主な生息場所は潮下帯なので、干潟で見ることが少ない。潮下帯においても減少傾向が続いているようであり希少ではあるが最近の情報が少ないため。
ウネムシロ		CR+EN	VU	変更	震災前には少数の記録しかなかった。震災後は2カ所で確認できたが少数であり、極めて希少であるため。
ナギサノシタタリ		CR+EN	VU	変更	震災前後を通じて極めて限られた場所に少数個体が見つかるだけであり、極めて希少である。近年減少傾向が著しいため。
ユムシ		NT	VU	変更	干潟においては震災前後を通じて、まれに記録される程度であり、個体数は限られる。しかし本種は潮下帯が主な生息場所であるため、NTに変更。
ツブカワザンショウ		VU	NT	変更	宮城県では震災前から生息記録は少なかった。震災後は確認地点が増加したものの、生息数は少なく、稀にしか見つからず、希少であるため。
ヒナタムシヤドリカワザンショウ		VU	NT	変更	震災後、主に仙台湾岸の干潟上部のヨシ原や転石帯で生息が確認されている。このように生息場所が特殊であり、確認された個体数が少ないことから、希少な存在であるため。
ヤマトクビキレガイ		VU	NT	変更	震災前後を通じて、生息場所は限られていた。震災後も数カ所で確認されたが、近年の記録はない。個体数が激減したといえるため。
ムシロガイ		VU	NT	変更	震災後、2カ所で生息が確認されたが、極めて少数であり、希少な存在であるため。
アカガイ		—	NT	削除	仙台湾沿岸の浅海域が主な産地であるが、震災後、漁獲量は減少し、共同漁業権内の個体数は維持されていることから、絶滅を危惧する状況にはないため。
サクラガイ		DD	NT	変更	震災前には生息記録は少数あったものの、震災後の記録は1回のみである。まれに、殻が見られることもあるため生息しているようではあるが情報が限られているため。
ヒメシラトリ		—	NT	削除	宮城県では、南三陸から仙台湾にかけて、広い地域で確認され、現状では絶滅の恐れはないことが判明したため。
ツバサゴカイ		VU	NT	変更	震災前から生息数は少なかった。震災後は数カ所で生息が確認されているが、生息好適地が限られており、個体数も少なく、希少であるため。
シダレイトゴカイ		—	NT	削除	確実にシダレイトゴカイであると判定できる種はこれまで得られていないことが判明したため。
スジホシムシモドキ		VU	NT	変更	震災前後を通じて、限られた記録しかなく、個体数も非常に少ないことから、極めて希少であるため。
エドガワミズゴマツボ		VU	DD	変更	震災前後を通じて、生息記録は極めて限られており、希少であるため。津波で新たに形成された汽水性の湿地にも見られたが、これらの場所は埋め戻されてしまった。
ヒメムシロ		—	DD	削除	本種は潮下帯が主な生息域であり、アマモ場では比較的普通に見られることから絶滅の恐れはないため。
ヨコイトカケギリ		NT	DD	変更	震災後は数カ所で確認されているが少数のみである。生息地が限られており、希少であるため。
マツシマコメツブ		NT	DD	変更	震災後、各地でまれに確認されることがあるものの、生息場所が限られており、個体数も少なく、希少であるため。
キヌタレガイ		—	DD	削除	アマモ場の泥中など、潮下帯が主な生息場所であり、干潟で記録されることはほとんどない。絶滅が危惧される状況にはないため。
イガイ		—	DD	削除	岩礁潮間帯が生息場所であり、以前から比べると少なくなったようであるが、絶滅の恐れはないため。
ムラサキガイ		—	DD	削除	宮城県では1995年以前の古い記録しかない。その後は見つかっておらず、古い記録は偶産種と考えられ、宮城県は生息域外であると考えられるため。
シオフキ		—	DD	削除	震災前の蒲生での古い記録しかない。その後の生息情報はなく、古い記録は偶産種あるいは誤同定と考えられ、宮城県は生息域外であると考えられるため。
オニアサリ		NT	DD	変更	震災後は幾つかの地点で確認されている。しかし個体数は少なく、希少であるため。
ハマダンゴムシ		NT	DD	変更	宮城県の砂浜には生息しているところが少なくないと思われる。しかし現在までに確認できた場所は限られており、希少であるため。
バルスアナジャコ		NT	DD	変更	宮城県で生息が確認されているのは数カ所のみである。礫浜などの生息適地が減少しており、個体数も少なく、希少であるため。
スネナガイソガニ		NT	DD	変更	宮城県では数カ所での記録しかない。主に潮下帯に生息し、潮間帯にも訪れるが、個体数は少なく、希少であるため。
アカイソガニ		NT	DD	変更	外洋に面したところの転石帯に生息するが、この場所は堤防工事等で埋められたり、改変されることが多く、生息場所を失う可能性が高い。個体数は少なく希少であるため。
オサガニ		—	DD	削除	2010年に鳥の海で採集された個体は漂流してきたものの可能性が高く、もともと宮城県は生息域外と考えられるため。

海岸地域の無脊椎動物類

ヒモイカリナマコ		NT	DD	変更	震災後に各地で見ついているが、個体数は減少傾向にあり、希少であるため。細礫が混じる砂泥底という好適な生息場所が少なくなっていることから、生息が危ぶまれる。
アマガイ		DD	要注目	変更	万石浦でのみ記録されている。宮城県の他の場所では見つからないが、人為的移入の可能性もあり、希少ではあるが情報が不足しているため。
クロタマキビ		NT	要注目	変更	寒帯性種であり、宮城県が分布の南限である。岩礁潮間帯に生息するが個体数は少なく、希少であるため。温暖化の影響が危惧される。
オオウスイロヘソカドガイ		NT	要注目	変更	岩礁潮間帯上部に生息する種であり、宮城県が分布の北限である。震災後数カ所で確認されたが、個体数は少なく、希少であるため。
キタノカラマツガイ		DD	要注目	変更	宮城県が分布の南限であるが、2009年以前の記録しかなく、希少ではあるが生息情報が限られているため。
ヒバリガイモドキ		—	要注目	削除	宮城県における古い記録は偶産種であった可能性が高い。そのため宮城県は生息域外と考えられるため。
ジャムシ		NT	要注目	変更	宮城県が分布の南限であり、これまで南三陸沿岸域の数カ所で出現しているが、個体数は少なく、希少であるため。
イシマキガイ		DD	—	新規	宮城県での生息地は2カ所のみと限られることから希少な存在であるが情報不足であるため。護岸工事や洪水等による攪乱があると個体群を維持できなくなる可能性がある。
ヒナユキスズメ		VU	—	新規	特殊な環境に生息しており、環境改変等によって絶滅してしまう可能性が高い。また、宮城県での生息地は極めて限られており、希少であるため。
クイロカワザンショウ		NT	—	新規	産地は比較的多いものの、生息場所がヨシ原など潮間帯上部であり、工事等によって生息場所が改変を受けると、生存が困難になる。個体数は少なく、希少であるため。
マツカワウラカワザンショウ		DD	—	新規	福島県松川浦の固有種であったが、近年、北に分布を広げている。宮城県では少数が確認されており、希少ではあるが情報不足であるため。
マツシマカワザンショウ		VU	—	新規	松島湾以外では見られない。近年になって生息する個体数が減少傾向にあり、希少な存在であるため。
マンゴクウラカワザンショウ		DD	—	新規	万石浦のみが生息地であったが、近年発見されておらず、希少ではあるが情報不足であるため。
カミスジカイコガイダマシ		VU	—	新規	震災後に宮城県の3カ所で見ついているのみ。個体数も少なく、極めて希少であるため。
ヤミヨキセワタ		NT	—	新規	鳥の海では安定して出現していたが、近年減少傾向にある。他には数地点で少数が見つかる程度であり、希少であるため。
ガタヅキ		NT	—	新規	近年、宮城県のいくつかの地点で確認されているが、個体数は少なく、希少であるため。
サビシラトリ		NT	—	新規	宮城県では、震災後も各地で見られるが、震災前に比べてかなりの程度減少しており、希少であるため。
ノトマスタス属の一種		NT	—	新規	宮城県では比較的産地が多いものの、低塩分の汽水域が失われてきていることから、全体として減少傾向にあり、希少であるため。
カンテンフサゴイカイ		DD	—	新規	近年、宮城県の2カ所で確認されたが、全国的に珍しい種であり、宮城県でも希少ではあるが情報不足であるため。
ニホンウミイサゴムシ		DD	—	新規	全国的にも稀な種である。宮城県でも最近の1カ所のみでの記録しかなく、希少ではあるが情報不足であるため。
スジホシムシ		VU	—	新規	宮城県では、震災後1カ所で生息が確認されたのみである。全国各地でも減少が著しく、希少であるため。
サンリクドロソコエビ		CR+EN	—	新規	宮城県の数カ所のみが生息地であり、日本ではそれ以外の確認例はない貴重な存在であるため。砂利浜で工事等が行われると生息場所が失われる。
ヒヌマヨコエビ		DD	—	新規	産地が限られているようであり、宮城県での確認例は少なく、希少ではあるが情報不足であるため。
ヨモギホンヤドカリ		DD	—	新規	磯の潮下帯が主な生息域であるが、全国的に生息が確認された地点は少ない。宮城県でも希少ではあるが情報が不足しているため。
マメコブシガニ		NT	—	新規	宮城県では各地の干潟で比較的良好に見られるが、年によっては少数しか発見できないところもあり、希少であるため。
ムツハリアケガニ		VU	—	新規	宮城県では震災後に記録されるようになったが、稀にしか見つからず、極めて希少であるため。
シロナマコ		DD	—	新規	宮城県での記録は少なく限られており、希少ではあるが情報が不足しているため。
ウチワイカリナマコ		DD	—	新規	宮城県での生息記録は少なく、希少ではあるが情報不足であるため。